

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103723
法人名	医療法人社団 青冥会
事業所名	認知症高齢者グループホーム第六若葉荘
所在地	香川県高松市三谷町4551番地6 (電話)087-840-1088

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価決定日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 6月15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤 9人, 非常勤 7人, 常勤換算	7.35人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	4,800円+実費
敷金	有()円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,300円			

(4)利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	18名	男性	9名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2歳	最低	66歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ミタニ藤田病院 松の内歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は周りが田園で秋には近くの山々が一面に紅葉し、季節の変化を身近に感じることができる静かな環境にある。事業所は独自の理念である「あいさつで始まる地域の交流」をあげ、地域の方や事業内でも管理者が率先し、全職員が挨拶を実践している。2ユニットが並行に連続した造りでお互いに連携して支援している。居間兼食堂は台所と洗面所が隣接し、入居者の方は習字、料理、新聞を読むなどを楽しんでいる。しかし、半数の入居者の方は介護度が高い方で職員は「一人ひとりに即した支援をしよう」との方針のもと、介護日誌や個別の介護記録に心身の状況や介護内容を詳細に記載している。母体の医療機関の協力を得ながら、その人らしく自立支援の対応にチームで取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の「地域とのつきあい」についての取り組みはその後、地域自治会や民生委員と話し合いや運営推進会議で検討を行っている。その結果、民生委員を通じて地域情報が増え地域の行事参加や災害時の協力依頼、ボランティアによる大正琴や銭太鼓の訪問など地域交流が拡がりつつある。その他できることから逐次改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目は職員と話し合いを行いながら、管理者が意見をまとめている。身体拘束廃止の必要性を再度確認するなど質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回の予定で開いている。討議事項は入退所情報、職員異動や外部評価結果の改善などを検討している。自治会との連携や災害対策などその時の問題について検討し、改善策に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2か月に1回家族に健康状態、金銭出納簿、事業所だよりなど定期的な報告をしている。それ以外にも面会時や電話での個別報告で対応している。意見や苦情は意見箱や外部機関の紹介も行っているが、余り意見がないこともあり、面会時家族から直接に聞き取る努力をしている。出された意見は職員で検討し運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時や職員が出勤時などに地域住民に積極的に挨拶をし、コミュニケーションを図っている。また、地域の清掃やお祭り、敬老会、子供達のマラソン大会の応援などの地域行事にも参加し地域との交流に努力をしている。民生委員と連携を図り、地域情報を得ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営方針として「家庭的な雰囲気、楽しい共同生活、一人ひとりに即した援助」があり、事業所独自の理念として「あいさつから始まる地域の交流」をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の実践の中で理念について話し合い共有している。取り組みとして挨拶は職員間はもちろん、地域の方々への実施や入居者には朝出勤すると必ず笑顔で挨拶の声かけをするなどの実践をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃やお祭り、敬老会、子供達のマラソン大会の応援など、地域行事にも参加している。事業所にはボランティアによる茶会や大正琴、銭太鼓の訪問もあり、地域の交流を深める努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員と評価項目について話し合いを行いながら、管理者が意見をまとめている。身体拘束廃止の必要性を再度確認するなど質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	予定としては2か月に1回としているが、委員の都合もあり昨年は4回の会議を開催している。会議内容は入退所状況、前回の外部評価結果の改善についても話し合いが持たれ、意見は双方向会議になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市担当者が参加している。母体となる施設の事務担当者を通して市との連携をとっている。事業所の考え方やサービスの課題解決や問題を直接行き来させて相談したり協議する機会を持つまでには至っていない。	○	市担当者に事業所の考え方や現場の実情などを積極的に伝える機会や関係づくりにより、更なるサービス向上への努力を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な報告は2か月に1回、健康状態、金銭出納簿、領収書、職員の異動、事業所だよりなどを報告している。面会時の報告や電話での個別の報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関に設置しているが、あまり利用がない現状である。職員は家族が来所した時に直接意見を聞くように努めている。出された意見などは職員と検討し、運営に反映している。外部機関は重要事項説明書で説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は最小限に抑える努力をしているが、法人内や退職などの異動がある。異動時は利用者で紹介して1週間程度はケアをペアで指導し利用者のダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内や研修受講後は資料や報告書による勉強会を開催している。年間計画で月1回、法人内で介護の実技研修会を開催している。各自の経験や習熟度の段階的な育成計画は持っていない。職員が自主的に資格試験を受けるなど自己啓発の意識は高い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で勉強会は開催しているが、法人外での交流や相互訪問などの機会がない。	○	他法人の同業者、また地域の同業者の相互交流や勉強会などで日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急きょ入所という利用者が多く、事前に短時間訪問して情報を得ているが、馴染みながらのサービス利用は難しい。管理者・職員はできる限り、家族や関連機関から情報収集し利用者の不安を最小限にできるよう努力している。	○	利用開始が急に決まることが多いため、利用者や家族の情報が少なく、状況が分からない現状がある。利用者・家族が安心して納得しながらサービスが利用できるような段階的な支援の工夫を期待したい。また、地域密着型サービスとして地域と事業所を行き来するなど馴染みながら本格的利用に移せるような工夫が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の表情をみて利用者が慰めてくれて、職員の表情に敏感なことを学ばされたこともある。利用者の貼り絵や習字を得意としている方にはその季節に合った作品を作成していただくなど支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が望んでいることや思いは日々の関わりや家族の話から把握に努めている。一日の暮らし方は利用者本位を大切にしながら過ごせるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族は入居時に意向や内容について要望を聞き、プランニングしているが、その後は面会が少ない家族もいるために家族と共に話し合う機会が少ない。電話をすると家族の来所がある。職員の意見やアイデアは反映して個別の介護計画を作成している。	○	事業所本位ではなく、家族に電話をするなど積極的にアプローチして家族の現状や意向を聞きながら本人がよりよく暮らす支援について、家族と共に検討を行う場がもてることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3か月に一度モニタリングし、介護計画を見直している。また、新たな問題が生じた時や変化が生じた時は臨機応変に見直しをしている。今後は毎月新鮮な目で見直しの取り組みを家族と共にすることに努める。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族などの状況に応じて、通院や特別な外出支援を行うなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に協力医療機関からの入居者も多く、継続しての受診支援となっている。利用者家族の希望にそって他の医療機関にも受診している。医療機関と連絡を密にとり、受診後の報告も電話などで行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に重度化、終末期について協力医療機関や家族の希望する医療機関への受診について説明し、家族の理解を得ている。入所後は、本人、家族、かかりつけ医などケア関係者との話し合いの取り組みには至っていない。	○	入居後も本人、家族やかかりつけ医などケア関係者との話し合いや、状況変化に応じての話し合いを繰り返す取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類などは別室で適切に保管している。日々の関わりの中ではプライバシーを損ねるような声かけや対応はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはもっているが、一人ひとりの生活のリズムを大切にして、その日、本人がしたいことの希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは2ユニットが2か月に一度の分担制で行っている。利用者が一緒に行く機会は少ないが、その人の持てる力を活かせるように、もやしの根きりやお膳拭きなどを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況から半数が特殊浴で曜日や時間帯を決めて、職員数を増やして対応している。希望がある時はその都度対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	めだかの世話や新聞のスクラップ、書写などができる利用者にはそれぞれの役割を楽しめるように働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の日には買物や散歩をしている。重度の利用者も年2回程度は近くの公園にでかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3か月に1回は施設内で職員・利用者と共に訓練を行い、年1回は消防署との協力での訓練も行っている。災害時は近隣の方、消防署との協力体制も取れている。防火管理者が中心となって防火計画や消防署との連携も取れている。災害時の備蓄については今後検討する予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態にして必要な摂取量、栄養バランスを確保できるように支援している。職員は記録に残して情報を共有し関わっている。メニューは協力医療機関の栄養士がカロリーや栄養バランスをチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な音や光・臭いもなく季節の花や飾りつけで居心地のよい空間になっている。利用者はテレビを見たり、書道をしたりして思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、大きめの窓からは自然の風景の様子がそのまま見える。備え付けのダンスとベッド以外は本人の使い慣れた品物や好み鉢物、写真などを置き、居心地よく過ごせる工夫をしている。		